

中学部 作業学習（陶芸班） 学習指導案

日 時：平成 年 月 日（ ）

時 間：〇：〇〇～〇：〇〇

場 所：〇〇室

指導者：T 1 〇〇〇〇

1 題材名 「角皿・楕円皿作り P a r t II ～学習発表会での販売に向けての製作～」

2 題材の目標

- (1) 作業に見通しをもったり、本時は何を頑張るのかという目標をもったりして作業に自ら取り組むことができる。
- (2) 挨拶や返事、完了の報告、依頼等を自ら教師や友達に伝えることができる。
- (3) 作業技術の向上や新たな作業技術を習得することができる。

3 生徒と題材

(1) 生徒について

陶芸班は2年生男子1名、3年生男子3名、計4名で構成されている。陶芸班は今年度5月下旬からスタートし、全員が初めて陶芸班に所属した生徒たちである。5月からたたら成形と型起こしによる皿作りを継続して取り組んでいることから、扱う道具の使い方にも慣れてきており、自分の作業に見通しをもって取り組むようになってきた。また、生徒たちは「一人で仕上げることができるようになった」「上手と認められた」という実感が作業意欲を引き出すことに繋がってきている。

一方で、一つの活動時間が長くなってくると身に付けた技術をうまく発揮できない場面も見られる。また、販売するためにも上手に作ろうという意識をもって取り組むまでにはまだ至っていない生徒が多い。そのため、自分が担当する工程ではどんなところに気を付けて（頑張って）取り組めばよいのかが、一時間一時間の授業の中で分かり、目標を意識しながら正確に作業に取り組む力を高めていくことが課題の生徒たちである。

(2) 題材について

本題材では今まで培ってきたたたら成形の技術の向上や作業工程の見通しを大切に積み重ねていきたいと考え、前題材と同じく角皿と楕円皿を製作することとした。角皿と楕円皿はいずれもタタラ成形で行うため、一定の規格の製品をたくさん作ることができる。その工程は、型枠に合わせて切る、高台を付ける箇所印を付ける、成形する、高台を接合部が見えないように接着する、等品質上特に問題となりやすい箇所が視認できる。また、得意な工程や比較的短期間で達成可能であると考えられる工程毎に役割分担することで、段階的に生徒たちに作業量や新しい工程を任せることができる。生徒が目標を意識して取り組んだりたくさんできたことへの達成感を感じたりしながら作業に取り組むことができると考え、本題材を設定した。

(3) 指導にあたって

- 作業に見通しと目標をもって自ら取り組むことができるように
 - ・作業の全体の流れや個々の作業工程等を生徒の必要性に応じて黒板や机に掲示する。
 - ・目標としていることを黒板や机に掲示したり授業の始めや活動開始時、報告時等に生徒と一緒に確認したりする。
- 挨拶や返事、完了や失敗の報告、依頼等を自ら教師や友達に伝えることができるように
 - ・材料が無くなったら話す、～ができたなら話す、〇個できたなら話す、などの場面でどうやってほしいのかを言葉やカードを用いて伝える。
- 作業技術の向上や新たな作業技術を習得することができるように
 - ・治具や補助具等を生徒の障害や様子に応じて整備する。また、作業を進める際には教師が演示を行い、できる部分から完了場面までの各工程を段階的に生徒に任せるようにする。

- ・主に生徒Cに関しては、皿を購入したお客さんからの評価も取り入れ、製作者側の品質に対する意識の向上も図っていく。

4 指導計画（総時数 24時間）

主な活動	時数
・製作（成形・粘土作り）	17時間（本時1・2/17）
・やすりがけ，窯詰め（素焼き）	1時間
・窯出し（素焼き），撥水材塗り，施釉，窯詰め（本焼き）	2時間
・窯出し（本焼き），やすりがけ，ポスター作り・値札作り アンケート作成	2時間
・売上金での買い物・反省会・次の題材に向けて	2時間

5 生徒の様子及び題材で願う姿

氏名（学年・性別）	今までの取り組みの様子	本題材で願う姿
角皿作り A （〇年・男） （学部研究 抽出生徒）	<p>型枠に沿って粘土を切る，削る部分の印の線を引く，高台を付ける箇所の印を付ける，といった工程に見通しをもって取り組むことができるようになってきた。5～6枚取り組むと活動が止まったり型枠の縁に沿って粘土を切り取れなくなったりすることがある。</p> <p>活動が切り替わる時に教師の指示を待ったり，材料が無くなった時は立ち歩いたりすることがある。</p> <p>指先は器用であるが，力加減の調整が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のたたらが無くなるまで，型枠の縁に沿って針で粘土を切り取り，型枠と同じ形のたたらを作ることができるようになってほしい。 ・材料が無くなったら，「できました」と教師に自分から報告できるようにしてほしい。 ・工程表を活用し，自分から次の活動に移ることができるようになってほしい。
	<p>〈学校生活における「高めたい自立的に生活する力」〉</p> <p>① 自分の活動内容が分かり，自ら活動に取り組むことができる。</p> <p>② 活動の手順を守り，自分が担当する物が無くなるまで自ら活動に取り組むことができる。</p>	
B （〇年・男）	<p>高台を皿の裏面に取り付ける手順が分かり，取り付け後は教師に報告することができる。しかし，仕上がりがその日の体調や気分によって雑になってしまうことがある。接合部に凸凹や未接合部分が無いように仕上げようという意識を毎時間もち，作業に取り組むことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製作上の注意点（高台を接合部が見えないように接着する）が分かり，意識して取り組んでほしい。 ・足りない部品を「～を～個下さい」と自分から言ってほしい。 ・自分から準備や片付け，掃除を行ってほしい。
C （〇年・男）	<p>手指の動かし方がぎこちなく，道具の操作や指先を使う細かい作業は苦手である。しかし，自分が担当する工程を一人でできるようになりたい，という思いをもっており，本時の目標を意識して作業に取り組むようになってきた。今年度，産業祭での販売経験もあり，作った製品を売りたい，という気持ちが強い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楕円の型枠の縁に沿って粘土を針で切れるようになってほしい。 ・販売するためにも品質の良い製品作りが大切であることが分かり，そのためにも製作上の注意点を意識しながら取り組んでほしい。

榑 円 皿 作 り			<ul style="list-style-type: none"> ・うまく粘土を切れなかった時は、自分から教師に伝えたりやり直したりする等してほしい。 ・皿と高台との接着工程では、接合部に忘れずにより紐を張り付けることができるようになってほしい。
	D (○年・男) (学部研究 抽出生徒)	<p>型枠の縁に沿って針で粘土を切ることができる。また、言葉による指示や承認の合図、目線での承認の合図等を出すと、高台の接着や次の活動に取り組んだりすることができる。</p> <p>活動内容や手順は理解しているため、自ら活動に取り組む力を引き出していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高台となる部材を教師の促しがなくても一人で切ったり、ボールに移したりすることができるようになってほしい。 ・教師の見守りや承認の合図を受けながら高台の接着ができるようになってほしい。 ・自分の分の材料が無くなったら教師に「できました」と完了の報告を自分からすることができるようになってほしい。
		<p>〈学校生活における「高めたい自立的に生活する力」〉</p> <p>① 教師の促しがなくとも、自分から必要な物を準備したり活動に取り組んだりすることができる。</p> <p>② 自分から「○○下さい」「教えて下さい」等と意思表示をすることができる。</p>	

6 本時の計画 (総時数 24時間中の1・2時間)

(1) 本時の目標

- ・自分が本時に頑張ることを意識したり注意する点を守ったりしながら、各工程を正確に仕上げることができる。

(2) 個別の目標と本時の学習過程 *太枠太字は本時の目標 *網掛けは中学部の研究(主体性)とかかわる目標 *抽出生徒の目標の(①②)は高めたい自立的に生活する力との関連を示す*その他の枠は各生徒の主な活動と手立て

時間	学習活動	教師の働きかけ・留意点		生徒の目標 とそれに対する教師の働きかけ・留意点			
		全体	A (抽出生徒)	B	C	D (抽出生徒)	
15分	1 始めの会 ・産業祭での販売の様子ビデオを見る。 ・学習発表会に向けて製作することと本時の作業で頑張ることを確認する。 ・本時の流れを確認する。	・産業祭で皿を販売し、売れた喜びを感じ取ることができるように、販売時のビデオを見たり販売参加者に感想を聞いたりする。また、売上金や売上金での購入物を見せる。 ・本時から学習発表会での販売に向けて製作することが分かるように板書し、全員で読みながら確認する。 ・本時の流れや本時で頑張ることを板書を見ながら確認する。	マーキングが消えた時点でかんなでの削りを終了してもよいことが分かり、削ることができる。				教師の承認の合図に応じて、自らへらを棒状の粘土の印に合わせて切り分けることができる。(①)
60分	2 製作活動 B: 削り C: 仕上げ A: 削り→仕上げ D: 高台の部材切り ↓ (角皿の製作) A: 型切り, 印付け 高台の接着 B: 型起こし, 高台の接着 (楕円皿の製作) C: 型切り, 印付け 型起こし, 高台の接着 D: 高台の接着	〈作業時間の前半〉 ・目標とする工程を意識して取り組むことができるように、工程の直前や製作時に今日の頑張ることを一緒に確認する。 〈作業時間の後半〉 ・目標を意識し、作業工程に向かうことができるように、「今日頑張ることは？」と問いかける。 ・自ら掃除に取り組むことができるように、作業室を3つに区切り、担当場所を決めておく。 ・作った製品を見ながら何に向けて製作しているのかを尋ね、製作目的を確認する。 ・目標に対してできたことや作業全体の中で課題となったことなどを板書し、生徒と一緒に確認し次時につなげるようにする。	型枠の縁に沿って針で粘土を切り取り、型枠と同じ形のたたらを作ることができる(①) ・教師が演示し、針を型枠の縁に沿わせて切るイメージをもてるようにしてから任せる。 ・検品を一緒に行い、上手に切れている場合は型枠からはみ出していないことを具体的に褒める。型枠からはみ出している場合はどこを切るか尋ね、自ら修正する姿を引き出す。 切り抜いたたたらが無くなった時に自分から「できました」と完了の報告をすることができる。(②)	指とへらを用いて、未接合部がないように皿と高台を接着することができる。	楕円の型枠の印をよく見て、針で型枠の縁に沿って型枠と同じ形のたたらを切り取るすることができる。 ・活動前に本時に頑張ることを問いかけ、言葉を引き出すことで、意識して取り組むことができるようにする。 ・型枠に4つの色を塗り、4分割して切るようにする。 ・上手に切れている際はがんばることを意識して取り組んでいることを話し、失敗した際はどうかを尋ね、目標を意識することの大切さに気付くようにする。 皿と高台の接着部分に、より紐を巻き残しがないように巻き付けることができる。 ・教師が演示をし、完成形と未完成形を示す。未完成のを一緒に完成させ、完成形をイメージできるようにしてから任せる。	・切る箇所が分かるように、棒状の粘土に印を付けてから渡す。 ・今日頑張ることであることを伝え、承認の合図を送りながら活動を見守ったり徐々に視線を離し、一人で取り組むのを待ったりする。 ・上手に切れていることや一人で取り組んでいることを即時に褒めたりハイタッチをしたりし、活動を強化する。 ・本生徒が切った粘土をBがもらいに來る機会を設定することで、活動することの必然性をもてるようにする。 教師の承認の合図に応じて、皿の印に合わせて高台を自分から置くことができる。(①) ・高台を置く場所に教師が歯ブラシで印を付け、2個は教師が演示で示し、残りの2個を生徒が行い完了できるようにする。 ・より紐と接着の作業は教師の演示を見て一緒に行い、皿を完成できたという達成感をもてるようにする。	
20分	3 片付け・掃除						
5分	4 終わりの会 ・教師の話聞く						

(3) 準備物

エプロン、テレビ、ビデオ、売上金、購入物、粘土、道具箱、針、かんな、なめし革、片栗粉、さらし、型枠、粘土板、ろくろ、石膏型、工程表、カード、新聞紙

(4) 評価の観点

〈生徒〉 本時で何を頑張るのかを言葉で話す・指で示す等して教師に伝えたり、型枠や印に沿って粘土を切り取る・未接合部が無いように接着する等して作業に取り組んだりすることができたか。

〈教師〉 生徒が本時にがんばることが分かり、正確に取り組むことができるための演示の仕方や発問、カードの活用、環境設定等の支援は適切であったか。

〈配置図〉

